VOL.14（令和4年10月）
発行：道路局橋梁課

はしのはなし

第十四稿
長者橋ものがたり

「はしのはなし」では、皆さんに横浜の橋の歴史や小話を、定期的に紹介していきます。第14回目は、長者橋について。

長者橋は、震災復興橋梁として、歴史的価値を改めて評価され令和４年３月24日に横浜市認定歴史的建造物として認定を受けた橋のひとつです。

そんな長者橋の誕生から、現在までの小話をしていきましょう。

1　長者橋はどこにあるのか？

長者橋は、日ノ出町駅を降りて東側スクランブル交差点の先にあり、桜並木やプロムナードでも親しまれる大岡川に架かる、中区長者町と日ノ出町を結ぶ橋です。

道路橋としては主要地方道横浜駅根岸線に野毛町や伊勢佐木町の入り口に位置し、車、歩行者ともに交通量が多い交通の要衝に位置します。

横浜市内には大正12（1923）年の関東大震災の復興橋梁として178橋もの橋が架けられました。長者橋は復興事業で架け替えられ、現在も残っている40橋のうちの１橋です。

【諸元】
・名称：長者橋（ちょうじゃはし）
・所在地：中区長者町
・橋長：26.0m
・幅員：22.9m
・竣工：昭和３(1928)年
・橋種：上路式コンクリートアーチ橋

a

長者橋の位置図

b

長者橋を右岸下流側より望む。

重厚な石造アーチの外観は建設当時より行き交う人たちの目に新鮮に映ったと思われます。

c

5/8に記念式典が盛大に行われました。

のちに説明する歴史的な価値から、橋梁としては15橋目となる横浜市認定歴史的建造物として新たに認定されました。

引用　a：橋梁課所蔵　b：橋梁課撮影
c：中区区政推進課撮影

2　長者橋はいつから架かっていたのか

江戸時代初期に吉田新田の開墾に伴い、新田の埋立地へ行き来するための橋として、現在の長者橋の位置に橋が架けられました。その後、交通機能の不便により、明治７(1874)年に架け替えられた木橋が現在の地名でもある長者町の名をとり長者橋と名付けられたといわれています。

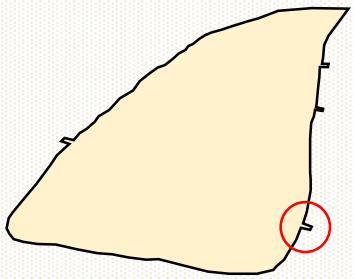
大正12(1923)年の関東大震災により、他の多くの橋同様、長者橋も被災し焼失しました。その後、復興事業の一環として、昭和３(1928)年に国の施工により現在の長者橋に架け替えられ、今に至ります。

d

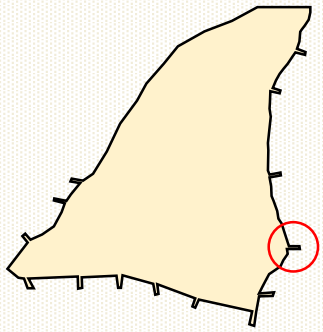
横浜村并近傍之図(嘉永４(1850)年頃)

e

横濱分見地圖(明治10(1877)年頃)



上の地図中央付近、吉田新田の地形略図。赤丸が今の長者橋の位置。「今の長者橋の處（ところ）に粗末な橋があった」といわれている。



上の地図中央付近、吉田新田の地形略図。新田の埋立地へ行き来できる橋が増え、地図上の記載は長者橋となった。

f

吉田新田のおおよその範囲。いわゆる関内より海側は別の新田開発で埋め立てられている。

g

昭和20(1945)年頃に撮影された写真。右側には市電の軌道が敷かれた長者橋が写っている。

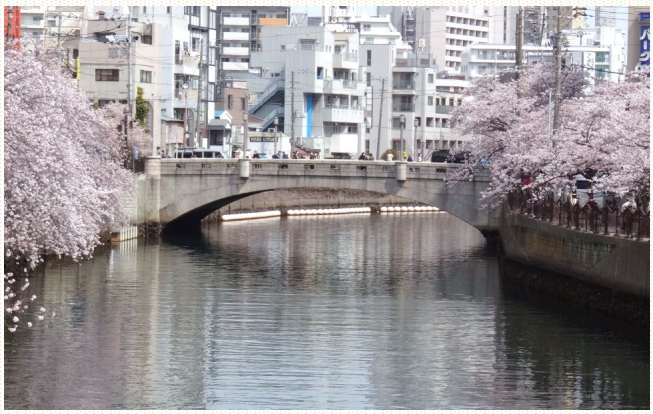
引用　d：横浜市中央図書館所蔵「デジタルアーカイブ都市横浜の記憶」
e：橋梁課所蔵 錦誠堂尾崎富五郎［著］「改正横濱分見地圖」明治11年１月
f：橋梁課所蔵，g：横浜市企画調整局［編］「港町･横浜の都市形成史」昭和56年
参考文献：小寺篤［著］「よこはまの橋・人・風土」昭和58年，橋梁課所蔵 横浜市役所［作］「横濱復興誌第二編」昭和56年

3　長者橋の意匠

存在感あるコンクリートアーチ橋の優美で堅牢な外観と、一見すると石橋と見紛う、みかげ石張りで形作られた繊細な意匠の組み合わせは訪れる人々の目を引き、優れた都市景観を演出するとともに地域のシンボルとして親しまれています。

この時期の震災復興橋梁は、応急的でシンプルな形状の橋が多い中、これだけ意匠にこだわっているのは、当時からこの路線が市民にとって重要な路線であったことが伺えます。

h



長者橋を旭橋より望む。

優美な桜と調和し、魅力的な親水空間を作っている。

i

長者橋を旭橋より望む。

夜にはライトアップされ、地域のシンボルとなっている。

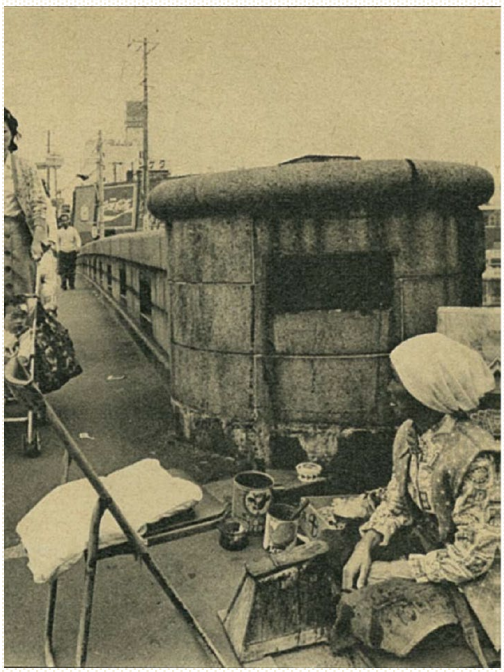
横浜における震災復興橋梁として、河川に架けられたコンクリートアーチ橋は３橋がありましたが、それぞれ架替え及び廃止により、長者橋が現存する唯一の橋となったため、地域のシンボルとしての景観的価値だけでなく、歴史的価値という点においても貴重な橋であるといえます。

4　戦後の灯具復元

震災復興橋梁の特徴としてみられる巨大で意匠性の高い親柱と灯具ですが、戦時中に国主導で行われた金属の供出により、金属製であった橋の灯具の多くもその対象となり、長者橋の灯具もそのひとつとなり、姿を消してしまいました。

その後、昭和50年代後半に、横浜の都市景観を復元する取組への機運が高まり、長者橋もその一環で復元される計画となりました。長者橋には横浜復興誌にも親柱の意匠図が残っておりませんでしたが、地元市民より開通式当時の写真を提供いただき、これをもとに灯具の復元が実現しました。

j



灯具が撤去された台座のみがの残っている。

k

「刃」をモチーフとした高さ3mの

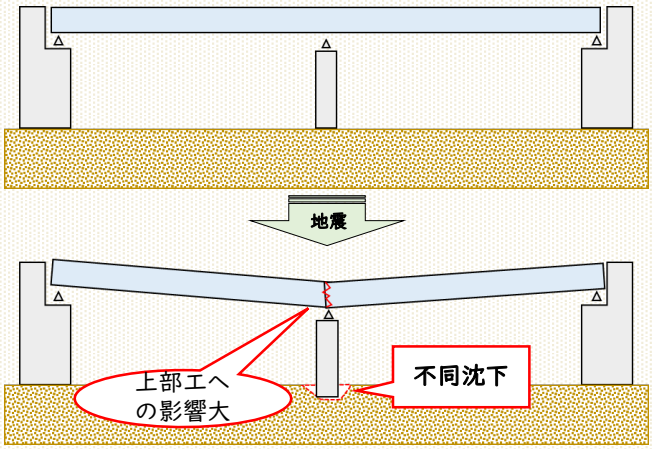
立派な灯具がついた親柱である。

引用　h,i,k：橋梁課撮影　j：横浜市市民局広報相談部広報課［編］市民グラフヨコハマ 平成15年
参考文献：「神奈川新聞」1984年10月7日

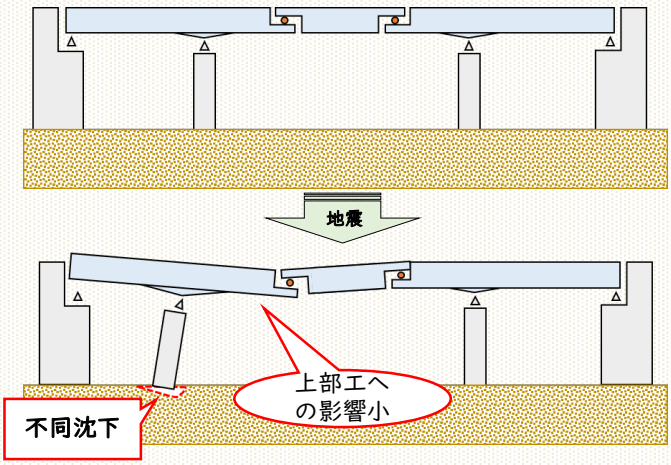
5　周辺の橋との形状の違い

長者橋のようなアーチ構造の橋は、その優美な曲線から景観に調和すると考えられており、景観を重視する箇所では採用されてきました。しかし、河川に近いと、どうしても地盤が軟弱であることが多く、このような環境下では地震の際、不同沈下が生じる恐れがあります。そのため、長者橋の周辺の復興橋梁では、不同沈下が生じても上部構造に無理な変形が生じない「ゲルバー桁橋」が多いです。

【桁橋の場合】



【ゲルバー桁橋の場合】



l

長者橋周辺の橋梁形式		
①	都橋	3径間ゲルバー桁橋
②	宮川橋	3径間ゲルバー桁橋
③	長者橋	単純支持コンクリートアーチ橋
④	旭橋	3径間ゲルバー桁橋
⑤	黄金橋	3径間ゲルバー桁橋

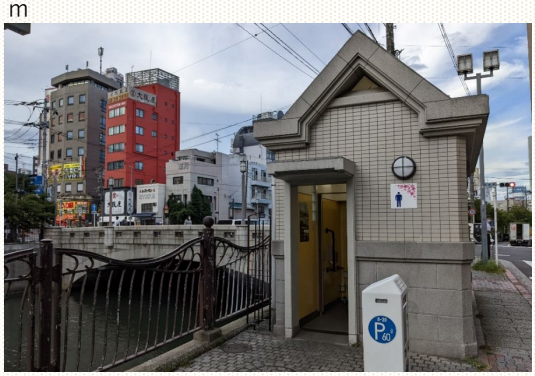
ではなぜ、長者橋は周辺と異なる構造を採用したのかというと、付近には野毛山の丘陵部が迫っており、周辺と比べ地盤が良好であったことから、アーチ構造を採用することができたため、地域の中心に位置するシンボルとして、この形式を採用したのだと考えられます。

【コラム】震災復興橋梁と公衆トイレ

長者橋の袂（たもと）には、公衆トイレが存在します。これは震災復興橋梁ならではの特徴の一つです。

未曾有の被害をもたらした関東大震災では、その復興に際して、当時の日本では見られなかった新たな、まちづくりが様々と生まれるきっかけにもなりました。橋の袂に存在する「橋詰広場」と呼ばれる空間も、この機会にはじめて明文化されました。

m



右岸上流側には、公衆トイレが設置されている。中には認定歴史的建造物になった記念で長者橋の成立ちや昔の写真等が掲示されている。

災害時の応急対応・治安維持の観点から、橋詰広場の存在・活用方法が見直され、震災復興事業では、橋詰広場に、共同便所(公衆トイレ)のほか巡査派出所(交番)、材料置場、散水施設、機具納庫(消防・消毒)等を設置するよう定められていました。

この名残から、長者橋では現在も公衆トイレが袂に存在しています。

市内や東京都内の震災復興橋梁にも、この時の名残がある箇所がほかにもいくつかあるので、橋を通る際に、気にして見てみるのも、面白いかもしれません。

引用　l；橋梁課所蔵　　m：橋梁課撮影